



JR東労組 (東日本旅客鉄道労働組合)

〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-24-1
東日本旅客鉄道株式会社 代々木総合事務所 5階
電話 03-5315-0941

2025年8月20日

第778号

発行人 加藤誠 編集人 湯ノ目亜矢子

毎月1回20日発行／一部20円
(組合員の購読料は、組合費に含む)

JR東労組ホームページは
←こちらからアクセス
<http://www.jreu.or.jp/>

第44回定期大会以降の拡大
(2025.6.12～)



戦後80年 JR東労組は、あらゆるテロにも戦争にも反対！



過去から学び、同じ過ちを繰り返さないために、平和について、戦争について、安心して暮らせる社会について考えよう！

【6月10日】
広島市主催の平和記念式典に参加し、ヒロシマに原爆が投下された時刻と同じ「8時15分」に黙とうを捧げました。広島市長の「平和宣言」では、核兵器廃絶に全力を尽くすことが述べられ、子ども代表の「平和への誓い」では、戦後80年を迎え、当時を知る方々がいなくなってしまう危機感や、平和への想いが述べられました。研修参加者からは「子どもたちの平和への想いはとても心に響いた」「自分たち大人がしっかりと行動していかなければいけない」と感想が出されました。



平和な世の中の実現に向けて、継続した運動を進めていこう！

青年連絡協議会は、ヒロシマ平和研修をはじめ、沖縄平和研修や国会前における19日行動など、平和運動を継続して取り組んでいます。また、各地において平和研修報告会なども開催し、多くの仲間が平和について訴えています。8月5日～7日、ヒロシマの実相から原爆の恐ろしさや悲惨さを学び、平和運動の必要性を訴えられる仲間づくりをめざした「2025ヒロシマ平和研修」を開催し11名の仲間が参加しました。

青年連絡協議会は、ヒロシマ平和研修をはじめ、沖縄平和研修や国会前における19日行動など、平和運動を継続して取り組んでいます。また、各地において平和研修報告会なども開催し、多くの仲間が平和について訴えています。8月5日～7日、ヒロシマの実相から原爆の恐ろしさや悲惨さを学び、平和運動の必要性を訴えられる仲間づくりをめざした「2025ヒロシマ平和研修」を開催し11名の仲間が参加しました。

【8月7日】
平和記念資料館の見学と総括会議を行いました。参加者からは「現地に立たなければ分からないことが多くある」「戦争や核保有は一部の者の利益のためであり、犠牲になるのは弱い立場の労働者である」「核兵器を持つべきではない」「平和を訴える仲間づくりが必要」と感想が出されました。そして、ヒロシマで学び感じたことについて新聞投稿を行っていくこと、情報の作成、そして私たち若い世代が多くの仲間と平和について訴え「平和のバトン」をつないでいく実践を行うことを確認しました。

JR東労組は1987年3月3日の結成以降、JR東労組綱領に基づいて運動を推し進めてきています。綱領には「私たちは国民の先頭に立ち、個人の尊厳を尊重し、日本国憲法に沿った自由にして公正・平等・平和な社会の実現をめざす」「私たちは基本理念を同じくする国内外の労働者と連帯し、基本的人権の確立と世界平和の達成をめざす」と記されています。

戦争で現地に送り込まれるのは、罪のない労働者。戦争やテロで被害を受けるのは、罪のない労働者。その家族、子どもです。安全で安心して暮らせる社会の前提は世界共通の平和な社会であることに間違いありません。

JR東労組は、1991年の湾岸戦争以降「平和」に対する危機意識を強く持ち、正確な時代認識を持つことが重要だと提起し、1993年から沖縄研修を始めました。現在も、JR東

労組は平和研修を開催し、現地に立ち、様々なことを感じ、過去から学ぶことを継続して実践しています。

日本人全体に占める戦後生まれの割合が88・8%になっている現在、戦争の記憶を語り継ぐことが本当に難しくなっています。そのような中、JR東労組青年連絡協議会は5月に沖縄、8月に広島への平和研修を開催し、今回のヒロシマ平和研修参加者は新聞投稿を実践しています。しかし、実際に現地に立つことができる人も限られています。だからこそ、「抵抗とヒューマニズム」の精神で、戦後80年の節目に平和について考え、自分は何ができるのかを様々な角度から仲間と共に考え、議論し実践していきましょう。私たち自身の手で「平和社会」をめざしていきましょう。



先日、後輩から「ゴーヤをたくさんいただいた。定番夏の野菜の一つである。また、福島の友人から夏の桃をいただき、冷やして食べたが格別に美味しかった。本部事務所では、OBの先輩が家庭菜園で収穫したキュウリ、ナス、ピーマン、シソなど、たくさん夏の野菜をみんなで美味しくいただいた▼友人からいただいた桃の箱に入っていた果樹園からのお知らせには「6～7月の猛暑・空梅雨とカメムシ大量発生の影響で不作」と記載があった。確かにこの夏は40℃を超え、雨も少なく、野菜や果物にも影響が出ている。夏に収穫する野菜や果物は暑さに強いのではないかと思いがちであるが、決してそのようなことではなく、適度な暑さと適度に雨が降らないと美味しく収穫できなくなる▼地球温暖化が国際政治で議論され始めてから30年以上経過したが、私たちが食するもののへの影響は計り知れない。これからも野菜・果物を美味しく食するために、人間の知恵と力が必要だ。それぞれの季節に収穫できる野菜や果物を大事に思い、感謝の気持ちを持ち続け、本来あるべき自然や気候を守るために行動していこう。

(K・S)